

令和 5 年 6 月 2 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H04389

研究課題名(和文)性売買女性の支援活動に関する日韓比較同時代史研究

研究課題名(英文)Japan-Korea Comparative Historical Research on Support Activities for Sex Selling Women

研究代表者

小野沢 あかね (Onozawa, Akane)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：00276700

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、性売買業者と買春を処罰し、性売買女性を支援する活動団体「性売買問題の解決のための全国連帯」と「性売買経験当事者ネットワーク・ムンチ」の活動を日本に紹介するため、それらと頻りに研究会を行い、国際シンポジウムを開催した。さらにシンパク・ジニョン『性売買のブラックホール』(ころから、2022)と性売買経験当事者ネットワーク・ムンチ『無限発話』(2023.7刊行)等を翻訳出版した。

日本の性売買経験当事者団体とその支援団体と研究交流を深め、ともに韓国へ調査へ赴くとともに、研究会・シンポジウムを開催し、日韓の性売買女性支援の比較と、今後日本で必要な支援とは何かについて、知見を深めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代日本では女性や子どもの貧困が深刻ななか、性売買をせざるをえない女性たちが多数存在する一方、買春があたかも男性のあたりまえの娯楽であるかのような風潮がある。しかし韓国では性売買防止法(2004)以降、国家や地方自治体の財政支出の下で、性売買女性の脱性売買支援が行なわれるようになり、他方で性売買業者のみならず買春者が処罰されるようになった。さらに、性売買経験当事者自身が、反性搾取の立場から自らの経験を発信しはじめている。こうした韓国の状況を日本に紹介することで、日本の現状を問い直し、性売買問題に関する日本の課題は何なのかを明らかにするという学術的かつ社会的意義を果たすことができたと考える。

研究成果の概要(英文)：(1) This study investigated the activities of the Korean feminist group "National Federation for Solving the Problem of Sex Trafficking" and the "Network of women who have experienced sex trafficking" called Munchi. These groups criticize sex traffickers and men who buy women's sex. On the other hand, they supports women who have no choice but to sell their sex. We frequently held workshops and international symposiums with these organizations. (2) Translated and published Shinpak Jinyoung's "The Black Hole of Sex Trading" (Korokara, 2022) and Munchi's "Infinite Utterance" (published in July 2023), etc.

(3) Deepened research exchanges with groups of people who experienced sex trade in Japan and their support groups. Together we went to South Korea for research, and held a study group and symposium. We deepened our knowledge about what support is necessary for women to escape from sex trafficking

研究分野：近現代日本史・女性史・ジェンダー史

キーワード：性売買 性売買防止法 売春防止法 性売買問題解決のための全国連帯 性売買経験当事者ネットワーク
クムンチ 女性支援新法 買春 買春処罰

1. 研究開始当初の背景

日本における性売買に関する法律は、未だに 1956 年制定の売春防止法であり、同法には、性売買を目的に勧誘行為を行なった女性を処罰する条項(第 5 条)があり、一方で買春者は処罰しないなどの多くの問題をはらんでいる。しかも、その後制定された風営法によって、現代日本では「性交類似行為」という名の下に、性売買が事実上合法化されていると言っても過言ではない。しかも、婦人保護事業は十分に機能しておらず、貧困や自宅にいられない事情を抱えた女性たちが次々と性売買に取り込まれている。こうした困難な女性たちを実際に支援しているのは、民間の団体の場合が多い。その一方で、現代日本では、性売買をセックスワークと呼び、その他の労働同様の労働であり消費であると見なし、その合法化を主張する研究者が増加している。

しかし、お隣の韓国に目を移すと、日本の状況とは異なり、買春処罰を含む性売買防止法(2004 年)の制定をきっかけに、性売買女性の非犯罪化をめざす「性売買問題解決のための全国連帯(以下、全国連帯)」が結成され、脱性売買を希望する女性たちに対する脱性売買支援が、政府や地方自治体の財政支援を引き出しつつ、活発に行なわれている。さらには、「性売買経験当事者ネットワーク・ムンチ」という性売買経験当事者自身による反性搾取運動が展開し、各国に存在する性売買経験当事者による反性搾取運動との連携を始めている。こうした日韓の状況の違いがなぜ生じたのか、まずは韓国の実情を調査し、考察したいと考えたのが研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、上記のような日韓の性売買政策の違いに着目し、まず韓国の性売買の実態と政策、全国連帯の脱性売買支援活動と買春処罰の実態、「性売買経験当事者ネットワーク・ムンチ」の活動等を調査することである。とともに、様々な方法で日本社会、とくに日本で同様の活動をする研究者・活動家に韓国での上記の団体の活動を紹介し、日本に韓国の上記の団体の人々を招聘して、日韓の共同研究会や国際シンポジウムを開催することである。そして、韓国の現状と日韓の違いとその原因、性売買問題に関する今後の両国の課題について研究・考察し、そのことを日本社会の人々に広く知らせていくことである。

3. 研究の方法

具体的な研究方法は、下記の通りである。

(1) 韓国の性売買集結地、全国連帯の活動、「性売買経験当事者ネットワーク・ムンチ」の活動を現地で、もしくは招聘して研究交流することで理解を深める。

(2) 日本で同様の活動を目指す研究者や活動家に全国連帯やムンチを紹介して研究会をするだけでなく、広く日本社会に韓国の現状を紹介するために、韓国から研究者・活動家を招聘して日韓国際シンポジウムを開く。

(3) 全国連帯やムンチの本を日本語に翻訳して出版する。

(4) 出版までには至らなくても、性売買に関する韓国の重要文献を翻訳し、そこから新たな知見を得て、今後の研究に役立てる。

(5) 実際には新型コロナウイルス感染拡大のためになかなかできなかったが、買春を女性への暴力と認定し、性売買業者はもちろん買春者処罰を導入した北欧(性平等)モデルと呼ばれる性売買政策を最初に実現したスウェーデン(1999 年実施)それとは対照的に、性売買業者を合法化したドイツの性売買の実情と、それらの国々での脱性売買支援を調査し、より広い視野から日韓の性売買政策を俯瞰する。これは、今後、再び科研費に応募・取得できた際に実現したい。

(6) 上記(1)～(5)までの内容を組み込んだウェブサイト「買春/性搾取のない社会を求めて～性売買女性とともに」を開設する。平易で読みやすく、研究者のみならず、大学生にも理解できる入門編を重視する。

4. 研究成果

(1) 韓国での調査 2019、2022 年

本研究では、韓国の性売買集結地の調査と、「性売買問題解決のための全国連帯、(以下全国連帯)」、「性売買経験当事者ネットワーク・ムンチ(以下、ムンチ)」をはじめとする韓国で反性搾取の立場から性売買問題に取り組むフェミニスト団体との交流・調査を深め、新たな知見を得ることができた。

2019 年 9 月下旬には韓国のソウル・全州・釜山を訪れ、これらの地域の女性人権センターの主要メンバーとムンチの活動についてのインタビューを行なうとともに、ソウルにおける #Me Too 運動、全州と釜山の性売買集結地閉鎖問題の調査等を行なった(小野沢あかね・金富子・古橋綾)。韓国のフェミニズムは性売買を性搾取ととらえ、#Me too 運動は反性搾取運動と深く結びついていて、性売買経験当事者女性自身もこれに参加していることを知ることができた。特にこの年は、「性売買カルテルをぶっとばせ」というタイトルで、ムンチのメンバーがスピーチを行っていた。また、全州では性売買集結地の閉鎖と女性の人権を重視したジェンダー・ガバナ

ンスに基づく街作りが進んでおり、かつての性売買集結地が、その実態とそこで性売買をさせられていた女性たちのことを、敬愛の念を持って追悼し、後世に伝えるためのアート空間になっていることなどの知見を得た。

2020年と2021年は、新型コロナウイルスの感染拡大のために海外調査は不可能だったので、2021年度に実施予定だった海外調査を、行き先を当初計画していたスウェーデン・ドイツから韓国(ソウル)へ変更し、2022年8月末~9月初頭に実施した。日本で反性搾取の立場から脱性売買支援を行なっているColaboのメンバーも同行し、ソウルの性売買集結地ミアリの踏査、ソウルの女性人権センターポダの活動と、ポダのメンバーとの研究会、性売買経験当事者ネットワーク・ムンチとの交流・調査を行なった(小野沢あかね、金富子、中里見博)。その結果、個々のムンチのメンバーがどのようにして脱性売買へ至ったのか、今後どのような活動をしていくべきなのか、彼らの立場から見た場合、日本の性売買経験当事者運動はどのようにあるべきなのか、について、多くの意見交換を行なった。そして、性売買経験当事者運動がまず最初に行なうべきことは、当事者どうしでつらかった過去の経験を何度も繰り返し話し合い、お互いによく知り合うこと、どんなときにも信頼できる素地をつくることであり、その後、外部への発信を行なうべきなのだという知見を得ることができた。また、この時、翌年のムンチ・メンバーの来日の約束をとりつけることができた。

2022年には、9月下旬に再び韓国(ソウル)を訪れた。全国連帯が、北欧(性平等)モデルを導入したフランスの国会議員モード・オリビエと性売買経験当事者活動家を1人招聘して研究会とシンポジウムを開催し、私たちの科研共同研究も招待してくれたためである。そこで、フランスにはフェミニストの女性国会議員はたいてい北欧(性平等)モデル支持派であること、北欧(性平等)モデルを導入するにあたって、彼女らと協力して他の議員をいかにして説得して回ったか、北欧(性平等)モデル導入が性売買に与えた影響について詳細な知見をオリビエ議員から得ることができた。ただしフランスでは同モデル導入によって、買春がいかに人権侵害であるかという認識は相当広がったものの、脱性売買支援については、いまだ多くの課題を残していること、とりわけ、パリではなく、地方において課題が多い事等についても知見を得ることができた。また、同行してきたフランスの性売買経験当事者運動家が、自身の性売買経験と、なぜ反性搾取運動に取り組むようになったのかという話も聞くことができ、この点における韓日仏の共通点の多さにも気づかされた。なお、この機会のオリビエ議員との交流により、今後、予算上の準備ができた場合の訪日の約束もとりつけることができた(小野沢あかね、金富子、中里見博)。

(2) 韓国とのオンライン・対面の研究会・国際シンポジウム

韓国へ調査・研究会・シンポジウム参加に行くだけでなく、韓国から、「全国連帯」と「性売買経験当事者ネットワーク・ムンチ」のメンバーを招聘して対面・オンライン研究会、対面・オンライン国際シンポジウムを何度も開催した。

2019年10月20日には、初めてムンチのメンバー2人を招き、日本で脱性売買支援の活動をしている民間団体にも参加してもらって、共同で非公開の研究会を開催した。この時は、セキュリティの問題上、非公開にせざるを得なかったが、ムンチのメンバーは、ムンチの自己紹介と履歴、性売買経験、買春男性の実態、運動の課題などについて語り、日本の研究者・活動家との意見交換が行なわれた。こうした試みは、日本で初めてのものであり、私たちは性売買経験当事者にしかわからない日韓の性売買の実態とその反性売買の主張について、多くの共通点があることについての重要な知見を得た。

日本で性搾取の危険にさらされている10代少女たちの支援を行なうColaboが、韓国の10代女性支援活動家を招聘して企画した国際シンポジウム「10代少女たちをどう支えるか」(2019/12/21)を共催し、当事者主体の支援についての日韓連帯活動について知見を得た。

性売買に関する研究と活動をすすめる韓国とオーストラリアの研究者を招聘して研究会を行なった。イ・ナヨン(韓国中央大学校教授)「性売買/性労働? 韓国のフェミニストの論争と運動の歴史」(2019/10/5)、キャロライン・ノーマ(ロイヤルメルボルン工科大学上級研究員)「オーストラリアの性売買の現状」(2020/2/22)であるが、ほとんど日本に紹介されたことのない内容である。前者からは、日本ほど多くはないものの、韓国にもやはり存在するセックスワーク論者と、性売買を性搾取とみる論者との間の論争がどのように行なわれてきたのかを学ぶことができた。後者からは、性売買合法化地域の存在するオーストラリアで、移民女性を中心に行なわれている性売買が、いかに人権を侵害したものであるかを学ぶことができた。

2020年10月には、下記に記した『性暴力被害を聴く「慰安婦」から現代の性搾取へ』(岩波書店、2020)の出版を記念して、本書の主要な執筆者である梁鉉娥氏を中心に数人の研究者を招き、日本のオーラルヒストリー研究者とともにオンラインで国際シンポジウムを開催した。性

売買にしても性暴力にしても、その体験を聞くことは不可欠であるが、それは大変困難なことであり、常に倫理的問題もつきまとう。そのあまりにも語り難い体験を聞くための方法や意義を議論し、「慰安婦」問題解決運動の中で実践されてきた「証言者中心主義」の重要性を受け継ぐことの重要性について知見を深めた。

2021年には、金富子・小野沢あかねを中心に、韓国の研究者・活動家とのオンライン研究会を3回行った。7/24には大邱女性人権センターのシンパク・ジニョン氏を講師に招き、大邱の性売買集結地「チャガルマダン」が、市の再開発に伴って閉鎖された際、市民と協力して市に条例を作らせ、市からの財政支援の下、そこで働いていた女性たちの脱性売買・生活支援・自立支援を行って来た経緯についてお話をうかがった。10/23には韓国の全国連帯と、日本で脱性売買支援を行なうColaboを中心とした研究会を開催した。さらに12/7には再びシンパク・ジニョン氏を講師に招くとともに、日韓の性売買経験当事者活動家同士が、互いの活動とその課題を話しあう研究会を開催した。ここでも、性売買経験当事者同士がまず信頼関係を築くことがなかなか困難なことだが、最も重要なことであるのが再確認された。

2022年には、下記に記したシンパク・ジニョン著、金富子監訳、小野沢あかね・仁藤夢乃解説『性売買のブラックホール』(ころから、2022)の出版を記念して、2度のオンラインシンポジウムを開催した。一度目(6/11)は、著者のシンパク氏に講演をしていただき、日本の多くの方々に、日本も深く関係している韓国の性売買の実情・脱性売買支援について聞いていただいた。2度目(7/3)は、当時国会で審議中であった「女性支援新法」について戒能民江氏にお話しいただくとともに、韓国の性売買防止法について金富子氏に、日本の性売買の現場についてColaboの仁藤夢乃氏にお話しいただくシンポジウムを行なった。性売買女性の支援のためには、法律の改正は不可欠であり、日本の現状も「女性支援新法」に見られるように少しずつ変化が見られる者の、韓国には未だ遠く及ばない現状が明らかとなった。

(3) 著作や翻訳書の出版

1冊の著作と、2冊の翻訳書を出版した。そして、それらとは別に、もう1冊翻訳書の出版が決定している。科研終了後ではあるが、2023年7月はじめに出版する。

著作は、金富子・小野沢あかね編著『性暴力被害を聴く 「慰安婦」から現代の性暴力へ』(岩波書店、2020)であり、「慰安婦」サバイバーの語りを聴いた方法を、いかにして現代の性暴力サバイバーの語りを聴くことに生かして行くかをテーマに、10人の方々の論考を収録したものである。

翻訳書の1冊目は、韓国挺身隊問題対策協議会・2000年女性国際戦犯法廷証言チーム著、金富子・古橋綾編訳『記憶で書き直す歴史 「慰安婦」サバイバーの語りを聞く』(岩波書店、2020)である。これは、韓国の証言集のなかでも特異な位置を占めるものである。インタビューアはできるだけ質問をすることなく、語り手に語りの主導権を渡し(「証言者中心主義」)、「慰安婦」時代だけでなく、その人の全人生を、その人の語りたように語ってもらうというものである。そのことによって、被害者の意外な側面や性暴力被害が全人生に渡るの意味がはっきりした。

翻訳書の2冊目はシンパク・ジニョン著、金富子監訳、小野沢あかね・仁藤夢乃解説『性売買のブラックホール 韓国の現場から当事者女性とともに打ち破る』(ころから、2022)である。同書は、著者の20年にわたる現場での性売買女性支援をもとに、韓国の性売買の実情を業者・買春者の実態をも含めて赤裸々にあきらかにし、ヨーロッパにも赴いて合法化国ドイツ等で行なった性売買調査をも記載している、日本でほとんど類を見ない本である。韓国の性売買は日本とも深く関係しており、この本は、性売買経験当事者女性の多数のケースを紹介することを通じて、性売買が決してその他の労働同様の労働とは言えないことが明確であることを明らかにしている。

翻訳書の3冊目は、性売買経験当事者ネットワーク・ムンチ著、金富子監修、小野沢あかね解説『無限発話 買われた私たちが語る性売買の現場』(梨の木舎、2023)である。この本は私たちが最も翻訳したかったものである。韓国の性売買経験当事者が自ら、反性搾取の立場から、自分たちの性売買経験や、業者と買春者の実態を明らかにしたものである。反性搾取の立場に立って性売買経験当事者が自分の経験を語った本は日本では類書をみない。科研終了後ではあるが、この本が出版される2023年7月には、5人のムンチのメンバーを招聘し、この本の出版記念トークイベントを行なうことが決まっており、広く日本の人々に同書の内容と、彼らの経験を生で直に知ってもらう予定である。

(4) さらなる翻訳活動

出版には至らなかったものの、さらなる翻訳活動も活発に行なった。主に以下の2つである。

『チャガルマダン閉鎖白書』の翻訳である。(2)のところで記載したように、大邱の性売買集結地チャガルマダンの閉鎖にともない、大邱女性人権センターは、市に働きかけて条例をつくり、市からの財政支援を使用して、チャガルマダンで働いていた女性たちの脱性売買自立支援を行なった。その詳細な記録と、性売買女性の率直な声が記されたものが、『チャガルマダン閉鎖白書』である。たいへん分厚いものであり、地方自治体と市民の力で、性売買女性の脱性売買と自立支援がかなり可能であることを示す貴重な報告書である。

もう1つの翻訳は、韓国の著名なフェミニスト社会学者である李娜榮氏の論文「性売買は「罪」なのか、「女性嫌悪」に基づく構造的暴力なのか」の翻訳である。同論文は、性売買女性を非犯罪化すべき論拠と、この問題に関する韓国内の論争を整理したもので、日本には類書がない。これらの文献の日本語訳は、今のところ出版の予定はないが、私たちの研究活動にとって、きわめて重要なものであり、役にたっている。

(5) 北欧（性平等）モデルの導入者との研究交流

本科研費では、新型コロナウイルスの感染拡大により、科研開始当初予定していた北欧（性平等）モデルのスウェーデンと性売買合法化国のドイツを訪問する調査旅行を実施することはできなかった。しかし、前述のように、2022年9月下旬に韓国（ソウル）で、北欧（性平等）モデルを導入したフランスの国会議員モード・オリビエと性売買経験当事者活動家と交流を深めることができ、その後も連絡を取り合い、北欧モデルに関する主要な文献や活動家に関する重要な知識を得ることができている。今後、予算上の準備ができた場合には、すみやかにスウェーデン、フランス、ドイツ等を訪れる準備ができた。

(6) ウェブサイト「買春／性搾取のない社会を目指して」の作成

上記の調査研究活動の成果を組み込んだ、性売買に関するウェブサイト「買春／性搾取のない社会を目指して」を作成し、独自ドメインを取得した。日本と韓国をはじめとする性売買の基礎的知識について、大学生等が読んで理解できるウェブサイトを目指し、入門編を重視した。また、トップページには、世界地図を配置し、北欧（性平等）モデルの国や地域を紫、合法化モデルの国や地域を赤で塗ることで、世界の性売買政策の現状が、視覚的にわかりやすくなる工夫も施してある。ただし、ほぼ完成しているものの、まだ、技術的に改良が必要な面が多いため、今はまだ一般公開はせず、パスワードをかけることで、一部の人々に閲覧してもらっている。今後、公開に向け、努力したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 吉見義明	4. 巻 44
2. 論文標題 日本軍慰安所と招聘・兵士・軍属	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中央大学論集	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金富子	4. 巻 25
2. 論文標題 植民地ジェンダー史研究を振り返る / 研究業績	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 クアドランテ	6. 最初と最後の頁 345-355
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野沢あかね	4. 巻 866
2. 論文標題 2021年度大会報告2日目「性売買・性暴力と国家・地域・個人」を聞いて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 75-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野沢あかね	4. 巻 83-1
2. 論文標題 日本軍「慰安婦」問題と性売買	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立教大学史学会『史苑』	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉見義明	4. 巻 866
2. 論文標題 三報告に対するコメント	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 66-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野沢あかね	4. 巻 102
2. 論文標題 日本軍「慰安婦」問題から何を学ぶか 買春批判の性教育へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 86-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Onozawa Akane	4. 巻 20
2. 論文標題 “Problem of J. Mark Ramseyer's “Contracting for Sex in the Pacific War” : On Japan's Licensed Prostitution Contract System”	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Asia-Pacific Journal : Japan Focus	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉見義明	4. 巻 43
2. 論文標題 中国における日本軍慰安所の所在について 『支那在留邦人人名録』各年版の検討を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中央大学論集	6. 最初と最後の頁 65-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見義明	4. 巻 944
2. 論文標題 ラムザイヤ 論文の何が問題か 日本軍「慰安婦」問題をめぐる“契約論”を検証する	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 126-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見義明	4. 巻 42
2. 論文標題 山口県における近代公娼制の展開	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央大学論集	6. 最初と最後の頁 11-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金富子	4. 巻 24
2. 論文標題 民主化後韓国の反性売買女性人権運動 ポストコロニアル・フェミニズムの視点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 クアドランテ	6. 最初と最後の頁 125-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金富子	4. 巻 810
2. 論文標題 「公娼」論・「植民地公娼」論を検証する	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 31-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見義明	4. 巻 243
2. 論文標題 書評：金富子・金栄『植民地遊廓』 第 部を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史科学	6. 最初と最後の頁 32-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野沢あかね	4. 巻 993
2. 論文標題 「戦時期日本社会史研究の新地平」コメント：ジェンダー・女性の経験の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野沢あかね	4. 巻 61-1
2. 論文標題 書評：金富子・金栄『植民地遊廓 日本の軍隊と朝鮮半島』吉川弘文館（2018年）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 72-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野沢あかね	4. 巻 3241
2. 論文標題 フェミニズム反性売買運動 当事者女性とともに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ふえみん婦人民主新聞	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉見義明	4. 巻 41
2. 論文標題 ある元日本軍「慰安婦」の回想(8) 吉元玉さんからの聞き取り	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中央大学論集	6. 最初と最後の頁 71-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮城晴美	4. 巻 別冊第5号
2. 論文標題 「被近代化」の暴力性 沖縄女性の風俗改良から「集団自決」まで	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鳥根県立大学北東アジア研究センター『北東アジア』	6. 最初と最後の頁 127-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古橋綾	4. 巻 98
2. 論文標題 受け継がれていく思い(アジアをつなぐアクティビズム戦時性暴力被害者支援の今・第7回)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア女性資料センター『女たちの21世紀』	6. 最初と最後の頁 64-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古橋綾	4. 巻 43
2. 論文標題 現代韓国フェミニズム：第一回#Me Tooムーブメント前夜・ミソジニーへの抵抗	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 posse	6. 最初と最後の頁 134-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 9件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 小野沢あかね
2. 発表標題 貸座敷での遊興と娼妓の玉代
3. 学会等名 第三次遊廓科研「一次史料に基づく近世～近代日本の「遊廓社会」に関する総合的研究」（基盤研究B）総括セミナー
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小野沢あかね
2. 発表標題 沖縄・Aサインバーホステスの経験
3. 学会等名 科研費基盤研究（B）「日本軍「慰安婦」制度の国際比較 帝国主義国の軍隊と性売買・性暴力」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉見義明
2. 発表標題 殿垣くるみ「1910-20年代福岡県における性売買業者と地域社会」に対するコメント
3. 学会等名 植民地遊廓研究会・遊廓社会研究会共催セミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉見義明
2. 発表標題 三報告に対するコメント
3. 学会等名 歴史科学協議会第55回大会 性売買・性暴力と国家・地域・個人（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小野沢あかね
2. 発表標題 ラムザイヤー氏「娼妓契約論」のどこが問題か
3. 学会等名 Fight for Justice・歴史学研究会・日本史研究会・歴史科学協議会・歴史教育者協議会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉見義明
2. 発表標題 ラムザイヤー氏「慰安婦」論の何が問題か
3. 学会等名 Fight for Justice・歴史学研究会・日本史研究会・歴史科学協議会・歴史教育者協議会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金富子
2. 発表標題 日本／植民地の公娼制
3. 学会等名 日本軍「慰安婦」研究会総会（韓国）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金富子
2. 発表標題 ラムザイヤー 「公娼」論・「植民地公娼」論を検証する
3. 学会等名 東日本部落解放研究所2021年度第1回定例研究会（招待講演）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金富子
2. 発表標題 日本の歴史修正主義とサバイバー証言の否定
3. 学会等名 韓国・金学順公開証言30周年記念国際学術大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小野沢あかね
2. 発表標題 元Aサインパーホステスの経験を聞く 米軍統治下コザ市（沖縄）におけるライフ・ヒストリーの方法
3. 学会等名 韓国口述史学会創立10周年記念学術大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野沢あかね
2. 発表標題 「戦時期日本研究の新地平」コメント：ジェンダー・女性の経験の視点から
3. 学会等名 歴史学研究会近代史部会・現代史部会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野沢あかね
2. 発表標題 日本人「慰安婦」の沈黙はなぜ長く続くのか 公娼制度・「慰安婦」・現代の性搾取
3. 学会等名 「慰安婦」問題の解決を求める北摂ネットワーク・豊中（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金富子
2. 発表標題 日本社会で「慰安婦」証言を「聴くこと」の可能性と不可能性
3. 学会等名 日本軍「慰安婦」被害者記念の日・国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金富子
2. 発表標題 被害証言と歴史修正主義的フェミニズム オーラル・ヒストリーを未来へ受け渡すために
3. 学会等名 韓国口述史学会創立10周年記念学術大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉見義明
2. 発表標題 『買春する帝国』について
3. 学会等名 VAWW RACセミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古橋綾
2. 発表標題 「内鮮結婚」を取り巻く葛藤：1930年代後半以降の報告書を中心に
3. 学会等名 朝鮮史研究会関東部会例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古橋綾
2. 発表標題 現代韓国フェミニズム：#Me Too運動に至る背景と展開
3. 学会等名 女性の安全と健康のための支援教育センター学習会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古橋綾
2. 発表標題 私が見た韓国#Me Too運動
3. 学会等名 ポルノ・買春問題研究会20周年記念イベント（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 性売買経験当事者ネットワーク ムンチ 著、金富子監修、小野沢あかね解説、萩原恵美訳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 梨の木舎	5. 総ページ数 -
3. 書名 無限発話 買われた私たちが語る性売買の現場	

1. 著者名 シンバク・ジニョン著、金富子監訳、小野沢あかね・仁藤夢乃解説、大畑正姫・萩原恵美訳	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ころから	5. 総ページ数 256
3. 書名 性売買のブラックホールー韓国の現場から当事者女性とともに打ち破る	

1. 著者名 ばっぶす編、中里見博、宮本節子、笹本潤、岡恵、竹山明子、北原みのり、キャロライン・ノーマ、金尻カズナ	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 216
3. 書名 ポルノ被害の声を聞く	

1. 著者名 愛敬浩二編著、中里見博、玉蟲由樹、平地秀哉、田村哲樹、齋藤笑美子、斎藤一久、尾形健、田代亜紀	4. 発行年 2022年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 280
3. 書名 講座 立憲主義と憲法学 第2巻 人権1	

1. 著者名 高麗博物館・朝鮮女性史研究会編著、金富子ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 351
3. 書名 朝鮮料理店・産業「慰安所」と朝鮮の女性たち	

1. 著者名 金富子・小野沢あかね	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 284
3. 書名 性暴力被害を聴く 「慰安婦」から現代の性搾取へ	

1. 著者名 金富子・岡本有佳・加藤圭木	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 168
3. 書名 だれが日韓「対立」をつくったのか	

1. 著者名 吉見 義明	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 282
3. 書名 買春する帝国	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金 富子 (Kim Puja) (40558102)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	吉見 義明 (Yoshimi Yoshiaki) (40102884)	中央大学・企業研究所・客員研究員 (32641)	
研究分担者	中里見 博 (Nakasatomi Hiroshi) (10283384)	大阪電気通信大学・共通教育機構・教授 (34412)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宮城 晴美 (Miyagi Harumi) (80618786)	琉球大学・グローバル教育支援機構・非常勤講師 (18001)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計7件

国際研究集会 韓国の「性売買経験当事者ネットワーク・ムンチ」のメンバー2人と大邱女性人権センター代表を招聘して行なった研究会	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 イ・ナヨン（韓国中央大学校教授）氏を招聘して行なった研究会「性売買／性労働？韓国のフェミニストの論争と運動の歴史」	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 『性売買のブラックホール』出版記念オンライントークイベント	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 『性暴力被害を聴く 「慰安婦」から現代の性搾取へ』出版記念オンラインシンポジウム	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 性売買集結地「チャガルマダン」閉鎖問題をめぐって	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 日韓の脱性売買支援活動の課題	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 日韓の性売買経験当事者活動家会議	開催年 2021年～2021年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関